三郷市議会議員

討議資料

あいざわ 圭一郎 の 地域だより

けいいちろう

Vol.06

35歳　情熱男走ります！

H23.1.01

新年明けましておめでとうございます

２０１１年も幕を開けました。皆々様におかれましては、夢多き新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。旧年中は公私にわたり格別のご厚情を賜り厚く御礼を申し上げます。三郷市におきましては二期目の木津市政が誕生いたしましたが、今年は春に県議会議員選挙、夏に県知事選挙が行われる予定となっております。国政におきましては、現政権は昨年の参議院議員選挙で管内閣の下敗退。１２月１７日現在の内閣支持率は、支持２１％ 不支持６０．４％、政党支持率は、民主党１３．８％自由民主党１７．８％となっており、民主党政権にレッドカードを突きつけた形で２０１０年の幕を閉じました（時事通信調べ）。

本年は１月下旬に通常国会が開かれる見通しですが、予算関連法案の参議院採決のリミットである３月下旬までに、他党との連携の道筋を見いだせなければ、菅内閣が行き詰まる「3月危機」の可能性も出てくるとされています。4月には統一地方選挙が控えており、国政の動向により地方の選挙情勢もガラリと変わるため、3月前後には政権党である民主党が何らかの一手を打ってくると予測されるところです。議会制民主主義の中では、数の重要性は言うまでもないところですが、手段だけではなく、世界の中の日本としてあるべき姿を打ち出せるような外交政策、低迷を続けている経済に対しての経済政策・労働政策、未来を担う子ども達が日本人としての誇を持てるような教育政策、少子高齢時代まっ只中の現状に即した福祉政策等、真に目指すべき日本の未来を第一に考えて諸政策を行っていただきたい、そう願う次第です。

今年は卯年です。年男ですのでより耳を立て多くの声を市政に届け、三郷市が大きく跳ぶことが出来るよう努力を続けて参りますので変わらずのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

三郷市議会 21 世紀クラブ　逢澤圭一郎
〒341-0018 三郷市早稲田２－１０－７　ＴＥＬ ９５７－８４６２　ＦＡＸ ９５７－８４６５
ホームページ　http://www.aizawa-k16.com

平成 22 年 12 月定例会の概要(抜粋)

議案第 66 号から 92 号及び選挙 2 件選任 2 件が審議され、指定管理者の指定、改正条例、設置及び管理条例、廃止及び変更、意見書、平成 22 年度各補正予算については審議の上可決、公平委員会委員に阿部正博氏の選任に同意致しました。尚、議案第 82 号三郷市児童クラブ設置及び管理条例の一部改正に対する修正動議が提出されましたが、審議の上否決され原案が可決されました。選挙 2 件につきましては、山下勝矢議員の議長職辞任に伴い行われ、新議長に酒巻宗一議員(公明党)、新副議長に堀切十四男議員(21 世紀クラブ)が就任されました。

議案第 72 号　三郷市立コミュニティセンター及び鷹野文化センター設置及び管理条例の一部改正条例　　**原案可決**

同施設の休館日を 12 月 28 日から翌年の 1 月 4 日までとする。平成 23 年 4 月 1 日施行

※コミュニティセンター(戸ヶ崎)及び鷹野文化センターの 2 施設が現行の休館日、月曜日・祝日が開館となり年末年始のみとなります。

議案第 74 号　三郷市老人福祉センター設置及び管理条例の一部改正条例　**原案可決**

老人福祉センター、岩野木集会場、老人デイサービスセンターの 3 施設の休館日を日曜日及び 12 月 28 日から翌年の 1 月 4 日までとする。老人憩いの家については月曜日及び 12 月 28 日から翌年の 1 月 4 日までとする。平成 23 年 4 月 1 日施行

議案第 77 号　三郷市保育所設置及び管理条例の一部改正条例　**原案可決**

指定管理者制度を導入するにあたり受入児童数の拡大を図るため、三郷市立戸ヶ崎東保育所の定員を 120 人から 131 人に改める。平成 23 年 4 月 1 日施行

※0 歳児 9 名→12 名　1 歳児 15 名→20 名　2 歳児 18 名→24 名　3 歳児 25 名→25 名
4 歳児 26 名→25 名　5 歳児 27 名→25 名となります。

議案第 82 号　三郷市児童クラブ設置及び管理条例の一部改正条例　**原案可決**

三郷市立彦糸小学校と三郷市立北郷小学校の統合及び三郷市立後谷小学校に児童クラブの新設をすることに伴い、

①三郷市立北郷小学校児童クラブの廃止　平成 24 年 4 月 1 日施行

②三郷市立後谷小学校児童クラブの新設　平成 23 年 4 月 1 日施行

※後谷小学校については、現状の民営あすなろ児童クラブから公営となります。

議案第 83 号　三郷市体育館設置及び管理条例の一部改正条例　**原案可決**

三郷市総合体育館の施設利用率と市民サービスの向上を図るため、休館日に関する変更。

総合体育館…現行の月曜日及び 12 月 28 日から翌年の 1 月 4 日までから、第 2 第 4 第 5 月曜日(祝日と重なる場合はその日以降の最も近い平日が休館日となります)及び 12 月 28 日から翌年の 1 月 4 日までに変更。よって、**第 1 第 3 月曜日は開館**となります。平成 23 年 4 月 1 日施行

議案第 86 号　三郷市一般会計補正予算(第 3 号)　**原案可決**

・13 市立保育所に感染予防対策として空気清浄器 91 台購入　3,000 千円
・彦糸小学校の大規模改修に対する設計業務委託料　15,000 千円
(外壁塗装・屋上防水・埼玉県産材木を使用した内部改装・
トイレ改修・校庭芝生化等を検討している状況です)

など詳しくは配布される議会だよりをご覧ください。

一般質問

男女共同参画社会について

男女共同参画社会に対する考え方

男女はそもそも人間同士ですから平等ですし、だからこそ機会の均等も、環境づくりも必要であると思っています。人権問題として能力ある女性があらゆる分野に登用され、力を発揮することや、育児休業後の職場復帰や再チャレンジなど多いに進めていくべきだと思います。

対子育てということに関して考えると

少々考え方を変えていくべきではないでしょうか。特に 0 歳～3 歳の幼児です。この期間に親が子どもの成長を見ることが、出来るだけ多くの時間子どもに愛情を注ぐことが、子どもの将来の為にも良いと思いますし、また、親の成長にも繋がることであると思います。もちろんこの期間に子どもに長い時間接することが女性しか出来ないという訳ではありません。ですが、これは母性本能を持ち合わせている女性の美徳のようなもので、第一義的な所では父性より母性の方が小さい頃の子育てはふさわしいと思われます。男性も子育てに対する意識を向上させることが前提ですけれども。

2008 年度の国立社会保障・人口問題研究所の調査

「母親の役割として子どもが 3 歳位までは母親は仕事を持たずに育児に専念にしたほうが良い」との問いに、賛成する割合は、85.9%です。これは既婚女性の意見です。この声を声なき声にすべきではないと思います。

保育の分野

待機児童の問題が顕著になってきています。保育士との兼ね合いから 0～2 歳の待機児童が圧倒的に多い状況です。1985 年頃から男女雇用機会均等法等の浸透により結婚・妊娠といった機会での離職の減少により働く女性が長期的に増加し、共働き世代が 1997 年以降専業主婦世帯を上回る状況が背景にあります。

政策的問題

少子化の進行による労働力人口の減少は顕著であり、その対策として「就業」と「結婚・出産・子育て」の二者択一構造を解決するのは、経済発展を支える上で不可欠な事項である。この目的のためにも、保育サービスの提供が必要な状況におかれている。とされています。

思うこと希むこと

経済政策・労働政策によって「保育に欠ける子」を作り出している状況です。本来、福祉政策というものは社会的弱者と考えられる国民に対して公的な支援を行う制度です。各家庭での経済状況、家庭環境、勤務実態などは様々ですので、どうしても 0 歳から保育所に預けなければならない家庭もあると思います。こういう家庭には絶対的に公的支援をしていかなければならないと思いますが、福祉政策も限界に近づいてきている現状で男女共同参画という名のもとにわざわざ誘因をしていく必要性があるのか疑問に思います。教育的見地から考えるとせめて 3 歳位までは基本的に母性本能を普遍的に持っている母親との時間を大切にしていくべきではないでしょうか。男女共同参画社会基本法第一条の条文の中には社会経済情勢の変化に対応できる豊かで活力ある社会を実現することという一文が書かれています。この豊かという言葉に係るのは経済に重きを置くことではなく、日本人の真心に重きを置くべきではないでしょうか。

保護者の一日保育士体験について

今日の保育現場では、子どもに全く興味を示さない親、反対に心配で何かとお願いをしてくる親、迎えに来ても全然喜ばない子ども、親の前ではいい子を演じ、保育所の中ではトラブルメーカーなどなど、以前にはなかった不思議な親子関係が見られるそうです。原因を保育士に聞きますと、親子の絆の希薄、長時間保育の結果親が親として育つ機会を奪っている等の意見が出てきます。　一日保育士体験とは保護者が自ら保育士としての体験を通して親としての役割を実感するものであり、各クラス一日一名限定で行われるものです。この体験によって、親心を育む、保育に対しての理解や感謝等の保護者の意義と共に、保育士の資質向上等の保育所にとっての意義もあるものです。

この活動は平成19年から埼玉県北部の私立園が参加する勉強会『親心を育む会』が中心となって、前埼玉県教育委員長の松居和氏も普及に努められております。松居氏は、「親が感謝の気持ちを保育所に抱くこと。幼児期の原体験が安心に満ちたものであるために、親と保育士の心が一つになることなど、それができた時に、家庭崩壊、モラル・秩序の崩壊は止められる」そんな思いで生まれたのが、この構想だとおっしゃっています。現在の社会で育てるという感覚が、他方で丸投げにも繋がっていくような懸念がある、そんな社会情勢の下、危機感を持ち思慮を重ねて新たな取り組みを行う姿勢に敬意を表する次第です。
本市におきましても、一日保育士体験を何度か実施しているそうですが、今後、公立保育所全所で実施してみてはいかがでしょうか。

山下勝矢 やましたかつや 前市議会議長
県議選へ立候補を表明

父、逢澤義朗が今期をもちまして県議会議員を引退する決意を致しました。昭和 52 年の三郷市議会議員初当選以来、市議当選 5 回(15 年余)、県議当選 3 回(12 年見込み)の長きに渡り皆々様の温かいお心に支えられ、市政・県政と携わらせて頂きましたことに長男として深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。
父の政治姿勢を受け継ぎ情熱を持ち続け邁進して参ります。

本年 4 月に行われる予定となっております県議会議員選挙には、山下勝矢前市議会議長が自由民主党推薦にて立候補を表明致しました。
公認会計士としての鋭い視点で公会計の第一人者として県政でご活躍されることを期待しております。

写真　山下勝矢前市議会議長と片山さつき参議院議員